

## 2025年3月期 第3四半期決算説明会資料

2025年2月4日  
株式会社ニチレイ

取締役上席執行役員 鈴木 健二

### (1) 第3四半期の総括

- ・売上高は、主力の加工食品事業と低温物流事業がけん引し増収
- ・営業利益は、第3四半期単独では、水産事業の伸長に加え、低温物流事業が前期並みの水準に回復したものの、加工食品事業の減益などによりグループ全体では減益だが、累計では過去最高に

### (2) 通期計画

#### (グループ全体)

- ・セグメント単位での修正はあるものの、全体では第1四半期決算で上方修正した計画から変更なし

#### (加工食品事業)

- ・前回計画から下方修正するが、売上高、営業利益ともに過去最高を見込む。

#### (低温物流事業)

- ・保管や運送需要を最大限に取り込み、通期計画の達成を図る

今回の決算で皆様に本日お伝えしたい内容は大きく2点となります。

まず、第3四半期の総括です。

売上高は、主力の加工食品事業と低温物流事業がけん引し3%増収となりました。

営業利益は、第3四半期単独では、水産事業の伸長に加え、上期低迷していた低温物流事業が前期並みの水準に回復したものの、加工食品事業の減益や、戦略費用の増加もあり3%減益となりましたが、累計では過去最高となりました。

続いて通期計画です。

グループ全体では第1四半期で上方修正した過去最高の売上高7,000億円、営業利益405億円から変更はありません。

加工食品事業では、前回計画から下方修正を行いますが、売上高は3,000億を、営業利益は200億を超えて、過去最高を見込みます。

低温物流事業は、前回計画から変更なく、国内外で保管・運送需要を最大限に取り込み、売上高は8%増収、営業利益は4%増益に向けて取り組みを進めていきます。

- 2025年3月期 第3四半期実績 (P.3~7)
- 2025年3月期 通期計画 (P.8~16)
- Appendix (P.17~28)

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

## 第3四半期実績

■ 第3四半期は加工食品事業のコスト増などで減益、累計では概ね通期計画に沿って進捗

(単位:億円)

	第3四半期			営業 利益率	第3四半期累計			通期計画 に対する 進捗率	営業 利益率
	実績	前年同期間比 増減	率		実績	前年同期間比 増減	率		
加工食品	811	50	7%	6.2%	2,363	172	8%	74%	
水産	198	2	1%		464	△23	△5%	93%	
畜産	172	△43	△20%		528	△102	△16%	78%	
低温物流	722	51	8%		2,095	165	9%	76%	
不動産	14	3	28%		38	5	15%	84%	
その他	24	△1	△3%		51	5	11%	80%	
調整額	△65	△8	—		△192	△18	—	—	
売上高合計	1,876	54	3%		5,348	204	4%	76%	
(海外売上高合計)	424	49	13%		1,232	161	15%	73%	
加工食品	50	△5	△9%		6.4%	161	28	21%	77%
水産	11	7	165%	11		6	101%	87%	
畜産	3	△1	△31%	9		0	4%	94%	
低温物流	49	0	1%	124		△11	△8%	75%	
不動産	5	1	22%	14		2	14%	74%	
その他	7	△1	△14%	11		3	40%	121%	
調整額	△5	△4	—	△13		△8	—	—	
営業利益合計	121	△3	△3%	318		20	7%	78%	
経常利益	124	△4	△3%	331		21	7%	80%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	77	△7	△8%	206		5	2%	79%	

【売上高】

主力の加工食品事業と低温物流事業が引き続き堅調に推移し4%増収

【営業利益】

第3四半期は水産事業が大幅増益となったが、加工食品事業の減益や戦略費用の増加などが響き3%減益、累計では加工食品事業が全体をけん引し7%増益

海外売上高 エリア別内訳 (3Q累計)

(単位:億円)

合計	北米	欧州	東南 アジア	東アジア	その他
1,232	290	558	211	90	84
(+161)	(+35)	(+83)	(+35)	(+5)	(+3)

※ ○ 内は前年同期間比、P.22に参考情報あり

為替レート	25/3 3Q	24/3 3Q
米ドル/円	151.28	138.10
ユーロ/円	164.39	149.61
バーツ/円	4.24	4.01

※ 1月~9月までの期中平均で算出

それでは、第3四半期実績について詳細の説明を申し上げます。

連結業績実績です。

第3四半期時点において、概ね通期計画に沿って進捗しています。

売上高は、第3四半期単独では1,876億円で3%増収、累計では5,348億円で4%増収となり、主力2事業がけん引しました。

営業利益は、加工食品事業と調整額での戦略費用の増加を受け、第3四半期単独では121億円、3%減益、累計では加工食品事業の貢献により318億円、7%増益で第3四半期時点の過去最高となりました。

■ 第3四半期も調理品の販売数量は伸長、利益面では北米でのコスト増により5億円減益

(単位：億円)

	第3四半期				第3四半期累計				
	実績	前年同期間比		営業利益率	実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
		増減	率			増減	率		
売上高合計	811	50	7%	2,363	172	8%	74%		
家庭用調理品	246	11	5%	701	49	8%	75%		
業務用調理品	300	24	9%	836	59	8%	75%		
農産加工品	63	△0	△1%	192	10	5%	74%		
海外	168	15	10%	513	55	12%	72%		
その他	34	1	2%	122	△0	△0%	80%		
営業利益	50	△5	△9%	161	28	21%	77%	6.8%	

増収効果の内訳	第3四半期			第3四半期累計		
	増収率	単価	数量	増収率	単価	数量
家庭用調理品	5%	1%	4%	8%	1%	7%
業務用調理品	9%	2%	7%	8%	1%	7%

【売上高】

《家庭用調理品》

- ・第3四半期は主力のチキン加工品などでTVCMと店頭販促を連動させたプロモーションを実施し数量伸長が継続
- ・「本当に旨い担々麺」などパーソナルユースを含む新商品の販売が好調に推移

《業務用調理品》

- ・大手ユーザー向けのチキン加工品が引き続き増収に寄与
- ・外食向けの米飯類や惣菜ルート向け商品の販売数量も伸長

《海外》

- ・北米事業は、インフレに伴う消費減退の影響が継続したが、販促効果もあり現地通貨ベースで増収を確保
- ・GFPTニチレイ社（タイ）は、タイ国内外での販売拡大などにより増収

【営業利益】

- ・第3四半期は北米事業でのチキン製品仕入コストの高止まりや一時的な販促費用の増加などにより9%減益となったが、累計では21%増益

続いてセグメント別の状況をご説明いたします。

まずは加工食品事業です。

売上高は2,363億円で、前期比プラス172億円、8%の増収となりました。家庭用調理品は売上高701億円、前期比プラス49億円、8%の増収となり、単価がプラス1%、数量がプラス7%で、数量伸長が大きく寄与しています。第3四半期単独でも主力のチキン加工品などでTVCMと店頭販促を連動させたプロモーションを実施し数量伸長が継続したことや、「本当に旨い担々麺」などのパーソナルユースを含む新商品の販売が好調に推移しました。

続いて業務用調理品です。

売上高は836億円で、前期比プラス59億円、8%の増収となり、単価がプラス1%、数量がプラス7%で、家庭用調理品と同様、数量伸長が寄与しています。大手ユーザー向けのチキン加工品が増収に寄与したことや、外食向けに簡便な調理で済ませられる米飯類、惣菜ルート向け商品の販売数量も伸長しました。

海外は売上高が513億円、前期比プラス55億円、12%の増収となりました。

内訳は、北米でプラス29億円、タイのGFPTニチレイ社でプラス27億円となっています。両エリアの詳細を後程ご説明しますが、北米ではプロモーションの強化により特に家庭用商品の販売数量が伸長したこと、タイでは国内外での販売拡大などにより増収となりました。

加工食品事業の営業利益は、第3四半期単独では、北米事業でのチキン製品仕入コストの高止まりや数量伸長のための販促費用の一時的な増加などにより9%の減益となりましたが、累計では21%の増益で過去最高となりました。

## ■ 第3四半期は国内事業が増益に転換し、前期並みの利益水準に回復

(単位: 億円)

	第3四半期				第3四半期累計				
	実績	前年同期間比		営業利益率	実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率	営業利益率
		増減	率			増減	率		
売上高合計	722	51	8%		2,095	165	9%	76%	
国内小計	501	25	5%		1,452	58	4%	77%	
物流ネットワーク	325	16	5%		939	37	4%	77%	
地域保管	176	9	6%		513	21	4%	78%	
海外	216	25	13%		620	97	19%	74%	
その他・共通	5	1	24%		24	10	73%	57%	
営業利益合計	49	0	1%	6.8%	124	△11	△8%	75%	5.9%
国内小計	49	5	12%	9.7%	119	△3	△3%	83%	8.2%
物流ネットワーク	22	2	12%	6.8%	55	△1	△2%	82%	5.8%
地域保管	27	3	12%	15.3%	64	△2	△3%	84%	12.5%
海外	7	△3	△31%	3.2%	23	△1	△6%	63%	3.7%
その他・共通	△7	△2	—	—	△18	△6	—	—	—

## 【国内】

## 《売上高》

・3PL事業や輸配送事業の伸長に加え、在庫水準の回復などにより4%増収

## 《営業利益》

・第3四半期は在庫水準の回復とともに、輸配送事業の伸長や運送効率化などが寄与し12%増益

## 【海外】

## 《売上高》

・欧州での小売り向け事業が堅調に推移したことに加え、当期に実施したフォワーディング会社の買収効果や円安による為替換算影響もあり19%増収

## 《営業利益》

・前期に実施したタイ、マレーシアでの連結子会社化に加え、欧州での小売り向け事業が伸長したものの、CSR関連費用の発生により6%減益

低温物流事業の第3四半期の実績です。

売上高は2,095億円で、前期比プラス165億円、9%の増収、営業利益は124億円で、前期比マイナス11億円、8%の減益となりました。

国内事業においては、3PL事業や幹線を含めた輸配送事業が伸長したことに加え、年末商材の保管需要の取り込みなどにより、売上高は1,452億円、前期比プラス58億円、4%の増収となりました。

営業利益は、第3四半期にて在庫水準が回復したことに加え、輸配送事業の伸長や運送効率化などが寄与し、第3四半期単独では49億円、前期比プラス5億円、12%の増益となり、四半期ベースにおいて増益に転換しました。

また、累計でも前期並みの利益水準に回復しました。

海外は、ポーランドを中心とした小売り向けの事業が堅調に推移したことに加え、当期に実施したフォワーディング会社の買収効果や円安による為替換算影響もあり、売上高は620億円、前期比プラス97億円、19%の増収となりました。

営業利益は、前期に実施したタイ、マレーシアでの連結子会社化に加え、欧州での小売り向け事業が伸長したものの、CSR関連費用の発生により、23億円、前期比マイナス1億円、6%の減益となりました。

- 水産は魚卵の収益性回復や高収益商材の拡販により6億円増益
- 畜産はコスト上昇の影響を受けたが、取り扱いカテゴリーの選択と集中を進め前期並みの利益を確保

(単位:億円)

		第3四半期			第3四半期累計					
		実績	前年同期間比		営業 利益率	実績	前年同期間比		通期計画 に対する 進捗率	営業 利益率
			増減	率			増減	率		
水産	売上高	198	2	1%	464	△23	△5%	93%		
	営業利益	11	7	165%	5.5%	11	6	101%	87%	2.4%
畜産	売上高	172	△43	△20%	528	△102	△16%	78%		
	営業利益	3	△1	△31%	1.8%	9	0	4%	94%	1.8%

## 【水産】

## 《売上高》

- ・ 低収益商材の削減を進めたことにより5%減収

## 《営業利益》

- ・ 在庫の入れ替えが進み、低迷していた魚卵の収益性が第3四半期に回復
- ・ 価格改定の実施や、高収益商材ならびにMSC・ASC認証品の販売拡大も寄与し6億円増益

## 【畜産】

## 《売上高》

- ・ 輸入冷凍食肉などの低収益商材の削減により16%減収

## 《営業利益》

- ・ 一部調達コスト増加の影響を受けたが、低収益商材の削減などにより4%増益

水産・畜産事業です。

両事業とも、構造改革を引き続き推進した結果、売上高は減収となり利益率が改善しました。

まず水産事業です。

売上高は、低収益商材の削減により、464億円、前期比マイナス23億円、5%の減収となりました。

営業利益は第3四半期に魚卵の収益性が回復したことや上期から継続してきた高収益商材やMSC・ASC認証品などの拡販により、11億円、前期比プラス6億円、101%の増益となりました。

続いて畜産事業です。

売上高はポークを中心とした輸入冷凍食肉などの低収益商材の削減により528億円、前期比マイナス102億円、16%の減収となりました。

営業利益は一部の商材で調達コストの増加の影響を受けましたが、低収益商材の削減などにより、9億円、前期比プラス4千万円、4%の増益となりました。



# 通期計画



■セグメント単位で修正するが、売上高、営業利益ともに前回計画から変更なし

(単位:億円)

	計画	通期				営業利益率
		前年同期間比		前回計画比		
		増減	率	前回計画	増減	
加工食品	3,130	221	8%	3,180	△50	
水産	550	△66	△11%	500	50	
畜産	680	△138	△17%	680	—	
低温物流	2,790	216	8%	2,760	30	
不動産	46	1	3%	46	—	
その他	71	3	5%	64	7	
調整額	△267	△39	—	△230	△37	
売上高合計	7,000	199	3%	7,000	—	
(海外売上高合計)	1,656	206	14%	1,683	△27	
加工食品	205	31	18%	210	△5	6.5%
水産	13	7	120%	13	—	2.4%
畜産	10	△0	△4%	10	—	1.5%
低温物流	165	7	4%	165	—	5.9%
不動産	19	2	15%	19	—	41.3%
その他	12	△1	△7%	9	3	16.9%
調整額	△19	△10	—	△21	2	—
営業利益合計	405	36	10%	405	—	5.8%
経常利益	412	29	8%	412	—	
親会社株主に帰属する当期純利益	260	15	6%	260	—	
EPS (円)	204	12	6%	204	—	

【売上高】

加工食品事業で下方修正するが、低温物流事業などでカバーし全体では前回計画から変更なし

【営業利益】

加工食品事業で下方修正するが、バイオサイエンス事業（その他）の伸長や戦略費用の見直しなどにより全体では前回計画から変更なし

海外売上高エリア別内訳

(単位:億円)

合計	北米	欧州	東南アジア	東アジア	その他
1,656	388	756	284	127	101
(+206)	(+44)	(+113)	(+37)	(+15)	(△3)

※ ○ 内は前年同期間比、P.22に参考情報あり

為替レート

	25/3		24/3実績
	想定	前回想定からの増減	
米ドル/円	154.00	—	140.55
ユーロ/円	165.00	—	151.98
パーツ/円	4.20	—	4.04

※24/3実績は1月～12月までの期中平均で算出

ここから、通期計画の説明に入ります。

連結業績予想です。

売上高は、7,000億円、前期比プラス199億円、3%の増収、営業利益は405億円、前期比プラス36億円、10%の増益で、それぞれ過去最高を見込みます。

セグメント単位では前回計画の変更を行います、全体では変更はありません。

売上高は、加工食品事業は販売進捗の遅れなどを踏まえ下方修正を行います、水産事業と低温物流事業の国内事業、ならびにその他に含まれるバイオサイエンス事業の第3四半期までの進捗を踏まえて上方修正を行うため、全体では変更はありません。

営業利益も、加工食品事業では売上高に連動して5億円の下方修正を行います、主に第3四半期での感染拡大に伴い、新型コロナ・インフルエンザ抗原同時検査キットの販売が好調に推移するバイオサイエンス事業と戦略費用の見直しで合わせて5億円の上方修正を行うため、前回計画から変更はありません。

海外売上高は、加工食品事業での下方修正に伴い、前回計画比マイナス27億円、1,656億円を見込みますが、前期比では14%の増収を見込みます。

結果として、海外売上高比率は23.7%となり、前期よりも2.4ポイント向上する見通しです。

## ■ 前回計画を下方修正するが、売上高、営業利益ともに過去最高を見込む

(単位: 億円)

	計画	通期				営業利益率	
		前年同期間比		前回計画比			
		増減	率	前回計画	増減		
売上高合計	3,130	221	8%	3,180	△50		
加工食品	家庭用調理品	935	61	7%	935	—	
	業務用調理品	1,104	77	8%	1,120	△16	
	農産加工品	253	16	7%	260	△7	
	海外	686	67	11%	713	△27	
	その他	152	1	1%	152	—	
営業利益	205	31	18%	210	△5	6.5%	

増収効果の内訳	第4四半期 計画			通期 計画		
	増収率	単価	数量	増収率	単価	数量
家庭用調理品	5%	2%	3%	7%	1%	6%
業務用調理品	7%	2%	5%	8%	2%	6%

## 【売上高】

## 《家庭用調理品》

・第4四半期も米飯類やチキン加工品、パーソナルユースなどの主力商品の拡販に注力

## 《業務用調理品》

・大手ユーザー向けの商品導入時期の遅れで通期計画を下方修正  
 ・チキン加工品を中心に、米飯類、食肉加工品など幅広いカテゴリーで、人手不足の中食・外食需要に対応

## 《海外》

・北米事業は、業務用の販売進捗の遅れにより下方修正をするが、現地通貨ベースで増収を見込む  
 ・GFPTニチレイ社(タイ)では、タイ国内・輸出向けに加工度を高めた商品の販売を拡大する

## 【営業利益】

・国内事業の増収効果の減少などにより5億円下方修正するが、過去最高の205億円を見込む

続いてセグメント別の状況をご説明いたします。

加工食品事業です。

売上高は50億円下方修正し、3,130億円、前期比プラス221億円、8%の増収を見込みます。

家庭用調理品は、米飯類、チキン加工品、パーソナルユースなどの拡販に引き続き注力し、935億円、前期比プラス61億円、7%の増収を見込みます。

増収7%の内訳は、単価がプラス1%、数量がプラス6%となります。

業務用調理品は、大手ユーザー向けの商品導入に遅れが生じたため、16億円の下方修正を行うことから、1,104億円、前期比プラス77億円、8%の増収を見込みます。

増収8%の内訳は、単価がプラス2%、数量がプラス6%となります。

チキン加工品を中心に、米飯類、食肉加工品などのカテゴリーの拡充を図り、人手不足の社会課題を解決すべく中食・外食需要に対応していきます。

海外は、前回計画から27億円下方修正し、686億円、前期比プラス67億円、11%の増収を見込みます。

27億円の内訳は、北米でマイナス28億円、タイのGFPTニチレイ社でプラス7億円、その他事業でマイナス6億円となります。

北米とタイについては後ほどご説明します。

営業利益は、売上高の修正に伴い、主に国内事業の増収効果の減少を反映し、マイナス5億円の下方修正を行いますが、205億円、前期比プラス31億円、18%の増益、営業利益率6.5%を見込み、過去最高の業績を目指します。

営業利益の増減要因

(単位: 億円)

	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期 累計	第4四半期 計画	通期 計画	前回通期 計画比
前期 営業利益	38	40	55	133	41	174	—
<b>増益要因</b>	<b>28</b>	<b>25</b>	<b>15</b>	<b>68</b>	<b>20</b>	<b>88</b>	<b>△5</b>
増収効果(※)	10	14	6	30	3	33	△5
価格改定効果	5	5	7	17	10	27	—
海外関係会社の 業績影響額	10	7	△4	13	△1	12	1
生産性改善	2	2	3	7	3	10	—
減価償却費の増減	2	0	0	2	0	2	—
その他	△1	△3	3	△1	5	4	△1
<b>減益要因</b>	<b>△8</b>	<b>△12</b>	<b>△20</b>	<b>△40</b>	<b>△17</b>	<b>△57</b>	—
円安による原材料・ 仕入コストの増減	△8	△8	△15	△31	△14	△45	—
原材料・仕入コスト の増減	△1	△1	△2	△4	1	△3	—
物流コストの増減	0	△1	△3	△4	△3	△7	—
動力燃料コストの増減	1	△2	0	△1	△1	△2	—
当期 営業利益	58	52	50	161	44	205	△5

※収益性重視の施策の実行による利益効果も含む

主な内容

- ・増収効果  
国内の業務用調理品の一部商品導入時期の遅れや農産加工品の計画修正を反映
- ・海外関係会社の業績影響額  
北米での業務用の販売進捗の遅れでマイナスとなるが、タイでの日本向け商品の数量伸長と輸出売上高の為替影響（パーツ安）が上回り上方修正

※詳細は次ページ

営業利益の増減要因となります。

「増収効果」は、国内の業務用調理品と農産加工品の売上計画変更に伴いで、マイナス5億円変更します。

「海外関係会社の業績影響額」はプラス1億円変更します。北米での業務用商品の販売進捗の遅れによりマイナス3億円となる一方、タイで「むねから」を含めた日本向け商品の数量拡大に伴う生産利益の積み増しや、第4四半期以降、ドルパーツの為替がパーツ安に転じ輸出売上高の為替環境が改善されたことで北米のマイナス影響を打ち返し、プラス1億円となります。

海外全体では下方修正を行うが、通期で11%増収を見込む

海外売上高実績と計画  
(単位: 億円)

		2025年3月期							
		第3四半期累計			通期				
		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		前回計画比	
増減	率		増減	率		前回計画	増減		
売上高	北米	279	29	11%	372	37	11%	400	△28
	GFPTニチレイ	187	27	17%	252	30	13%	245	7
	その他	47	△1	△2%	62	△0	△1%	68	△6
	合計	513	55	12%	686	67	11%	713	△27

【タイ】

▲《前回計画比からのプラスの環境変化》

- ・ドルパーツでのパーツ高からパーツ安への転換により、輸取出引の収益が改善

【北米】 売上高・営業利益

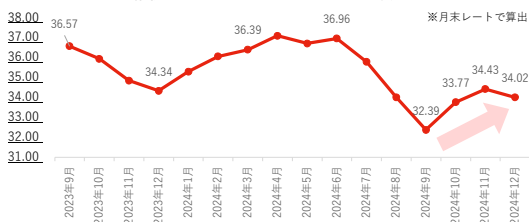
▼《前回計画比からのマイナスの環境変化》

- ・業務用商品の販売進捗に遅れ→順次、導入を見込む

±0《想定通りの事項》

- ・販促費の増加
- ・チキン製品仕入れコストの高止まり

ドルパーツの推移 第2四半期時点をボトムに為替環境が改善



		2025年3月期							
		第3四半期累計			通期				
		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		前回計画比	
増減	率		増減	率		前回計画	増減		
売上高	連結通貨 (億円)	279	29	11%	372	37	11%	400	△28
	現地通貨 (百万USD)	184	3	2%	242	4	1%	259	△17
営業利益	連結通貨 (億円)	11	△7	△38%	14	△10	△42%	17	△3
	現地通貨 (百万USD)	7.3	△5.5	△43%	9.1	△8.2	△47%	11.0	△1.9
営業利益率 (連結通貨)		4.0%			3.8%			4.3%	
為替レート (米ドル/円)		151.28			154.00			154.00	—

北米事業について補足説明します。

主に業務用商品の販売に遅れが生じたことから、売上高・営業利益ともに計画を修正し、通期の連結通貨ベースの売上高は372億円、前期比11%増収、営業利益は14億円、前期比マイナス42%の減益を見込みます。

なお、今期は、前期比でラテンブランドの販促費用とチキン製品仕入れコストの高止まりを受けて大幅減益を見込みますが、来期はラテンブランドを中心にした販促費用も落ち着くことや、遅れが生じている業務用商品も導入を見通していること、またチキンのコストも今期ほどに影響を受けない見通しになっています。

■保管・運送需要を最大限に取り込み、通期計画達成を図る

(単位：億円)

	計画	通期				営業利益率
		前年同期間比		前回計画比		
		増減	率	前回計画	増減	
売上高合計	2,790	216	8%	2,760	30	
国内小計	1,908	84	5%	1,878	30	
物流ネットワーク	1,239	53	4%	1,222	17	
地域保管	669	31	5%	656	13	
海外	840	129	18%	840	—	
その他・共通	42	4	10%	42	—	
営業利益合計	165	7	4%	165	—	5.9%
国内小計	145	6	4%	143	2	7.6%
物流ネットワーク	68	3	5%	67	1	5.5%
地域保管	77	3	3%	76	1	11.5%
海外	34	△2	△4%	37	△3	4.0%
その他・共通	△14	2	—	△15	1	—

【国内】

《売上高》

- ・3PL事業や輸配送事業の伸長を踏まえ30億円上方修正

《営業利益》

- ・保管事業の在庫回復、輸配送事業の取り扱い拡大や更なる効率化の推進により2億円上方修正

【海外】

《売上高》

- ・欧州ではオランダ港湾地区での集荷が伸び悩むが、好調に推移する小売り向け事業や英国フォーディング会社の買収効果でカバーし前回計画から変更なし

《営業利益》

- ・欧州でのオランダ港湾地区における集荷物量の下振れやCSRD関連費用の増加により3億円下方修正

次に低温物流事業の通期計画です。

引き続き、保管・運送需要を最大限に取り込み、通期計画の達成を図ります。

国内の売上高は、3PL事業・輸配送事業の伸長を踏まえ30億円上方修正し、1,908億円、前期比プラス84億円、5%の増収を見込みます。

国内の営業利益は、保管事業の在庫回復、輸配送事業の取り扱い拡大や更なる効率化の推進により2億円上方修正し、145億円、前期比プラス6億円、4%の増益を見込みます。

次に海外です。

売上高はオランダ港湾地区での集荷が伸び悩むものの、好調に推移する小売り向け事業や英国フォーディング会社の買収効果でカバーし、前回計画からの変更なく、840億円、前期比プラス129億円、18%の増収を見込みます。

営業利益は、オランダ港湾地区における集荷物量の下振れやCSRD関連費用の増加により3億円下方修正し、34億円、前期比マイナス2億円、4%の減益を見込みます。

以上より、低温物事業流全体としましては、売上高は前回計画から30億円上方修正し、2,790億円、前期比プラス216億円、8%の増収を見込みます。

営業利益は前回計画から変更なく、165億円、前期比プラス7億円、4%の増益を見込みます。

営業利益の増減要因

(単位: 億円)

	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期 累計	第4四半期 計画	通期 計画	前回通期 計画比
前期 営業利益	40	47	49	135	23	158	—
<b>増益要因</b>	△3	△2	4	△1	17	16	—
集荷増による 業績影響額	△1	△1	2	0	4	4	1
業務効率化	△2	△1	2	△1	3	3	1
適正料金收受などの 施策効果	2	1	3	6	3	9	—
海外	1	1	△3	△1	△1	△2	△3
その他	△3	△2	0	△5	7	2	1
<b>減益要因</b>	△3	△3	△4	△10	1	△9	—
エネルギーコストの 増減	1	△1	△2	△2	△1	△3	—
外部委託コスト増 (備車・倉庫内作業含む)	△2	△1	△2	△5	△1	△6	—
国内新設拠点稼働の 一時費用	△2	△1	0	△3	3	—	—
当期 営業利益	34	41	49	124	41	165	—

主な内容

- ・集荷増による業績影響額  
保管事業の更なる在庫の積み上げと冷食共同配送などの輸配送事業の堅調継続を想定
- ・業務効率化  
保管・輸配送事業の取り扱い物量の拡大に応じた作業・積載効率の向上に注力
- ・海外  
欧州でのオランダ港湾地区における集荷物量の下振れや、CSRD関連費用の増加などを反映

営業利益の増減要因となります。

通期計画については前回計画からの変更はありませんが、国内外での内訳を変更しています。

国内における保管事業の更なる在庫の積み上げと冷食共同配送などの輸配送事業が堅調に推移することを想定し、「集荷増による業績影響額」を1億円上方修正しております。

また、取り扱い物量の拡大に応じた作業効率や積載効率の向上に注力することで、「業務効率化」の効果が1億円増加することを見込んでいます。

一方、「海外」につきましては、前回計画比で3億円減額しております。こちらは、欧州事業の港湾事業における取り扱い物量減少や、CSRD関連費用の増加などを反映しております。

海外の状況

海外売上高

(単位: 億円)

		2025年3月期					
		第3四半期累計			通期		
		実績	増減	率	計画	増減	率
売上高	欧州	558	83	18%	756	114	18%
	東アジア	42	5	12%	57	5	10%
	東南アジア	20	9	90%	27	10	59%
	合計	620	97	19%	840	129	18%

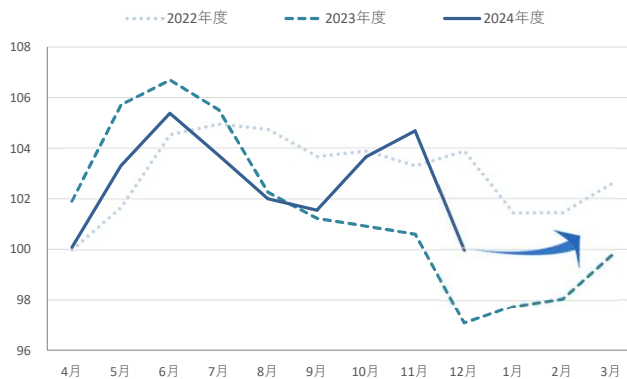
欧州売上高

		2025年3月期					
		第3四半期累計			通期		
		実績	増減	率	計画	増減	率
連結通貨 (億円)	保管	220	43	24%	294	50	20%
	通関・輸配送	337	41	14%	463	64	16%
	合計	558	83	18%	756	114	18%
現地通貨 (百万ユーロ)	保管	134	15	13%	178	18	11%
	通関・輸配送	205	7	3%	280	18	7%
	合計	339	22	7%	458	36	8%

国内の状況(在庫水準)

- ・ 第3四半期は前年を上回る在庫水準で推移
- ・ 第4四半期も輸入貨物の搬入量の緩やかな回復などもあり前年を上回る在庫水準を想定

当社の12大都市 在庫屯数推移



※2022年4月の在庫屯数を100とした場合の推移

海外及び国内の状況に関し補足いたします。

まず、左側の海外の状況についてご覧ください。

海外売上高の通期見込みは840億円と変更なく、欧州や東南アジアでの事業拡大が堅調です。

続いて、右側の国内の状況をご覧ください。

上期は前年の高在庫の反動減で苦戦いたしましたが、9月以降、当社の12大都市の在庫トン数は、前年を上回る水準で推移しております。

第4四半期以降も、輸入貨物の搬入の緩やかな回復が見込まれ、前年を上回る在庫水準を想定しています。



## ■水産、畜産ともに事業構造改革を継続し、通期計画の達成を見込む

(単位: 億円)

		通期					営業 利益率
		計画	前年同期間比		前回計画比		
			増減	率	前回計画	増減	
水産	売上高	550	△66	△11%	500	50	
	営業利益	13	7	120%	13	—	2.4%
畜産	売上高	680	△138	△17%	680	—	
	営業利益	10	△0	△4%	10	—	1.5%

### 【水産】《売上高》

- ・低収益商材の大幅削減を進めつつ、北米をメインにした海外販売の強化に注力
- ・第3四半期までの進捗を踏まえ、前回計画から50億円上方修正

### 《営業利益》

- ・価格改定の推進や高収益商材及び認証品の取り扱い拡大に注力し、計画通り13億円を見込む

### 【畜産】《売上高》

- ・低収益商材の削減を強化する一方で、収益性の高い加工品や健康価値食肉など差別化商品の拡販を推進

### 《営業利益》

- ・価格改定の推進や輸入冷凍品などの低収益商材の削減により、前期並みの利益を見込む

水産・畜産事業です。

まず水産事業です。

売上高は、第3四半期までの進捗を踏まえ、前回計画から50億円上方修正を行い、550億円、前期比マイナス66億円、11%の減収を見込みます。

引き続き低収益商材の大幅削減を計画的に進める一方、北米をメインにした海外販売を強化していきます。

営業利益は、価格改定の推進や高収益商材及びMSC・ASCなどの認証品の取り扱い拡大に注力し、前回計画の13億円、前期比プラス7億円、120%の増益を見込みます。

また、ROICの観点では、前中計の3.3%から7.5%と大きく上昇し、利益率、使用資本回転率の両面において大幅な改善となる見込みです。

続いて、畜産事業です。

売上高は、加工品や健康価値食肉など差別化商品の拡販を推進する一方で、低収益商材の削減を継続し、680億円、前期比マイナス138億円、17%の減収を見込みます。

営業利益は、価格改定の推進や輸入冷凍品などの低収益商材の削減により、前回計画の10億円、前期並みの利益を見込みます。

<終わりに>

残り2か月を切りましたが、過去最高の業績となる売上高7,000億円、営業利益405億円の達成に向けてしっかり取り組み、4月からスタートする新しい中計に良い形で繋げていきたいと思えます。

# Appendix

# 貸借対照表の増減要因

(単位: 億円)

	2024年3月期 期末	2025年3月期 第3四半期	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	2,014	2,243	229
固定資産	2,837	2,875	38
資産合計	4,852	5,118	267
<b>負債・純資産の部</b>			
流動負債	1,235	1,466	231
固定負債	957	901	△55
負債合計	2,192	2,367	175
純資産合計	2,659	2,751	91
(うち自己資本)	2,534	2,599	65
有利子負債	980	1,149	170
(うちリース債務除く)	839	1,019	180

## 【主な増減要因】

- ① 売掛金 +145億円
- ② 短期借入金 +132億円  
    コマーシャル・ペーパー +100億円
- ③ 社債 ▲100億円  
    長期借入金 +53億円
- ④ 親会社株主に帰属する当期純利益 +206億円  
    配当金 ▲100億円  
    自己株式取得 +53億円

	2024年3月期 第3四半期累計	2025年3月期 第3四半期累計	増減
設備投資額 (うちリース資産除く)	212	218	5
減価償却費 (うちリース資産除く)	189	201	12
	179	179	0
	152	154	1

## 【主な実績】

- ⑤ ワルシャワ冷蔵倉庫新設 (ポーランド) 26億円  
    ズニン冷蔵倉庫増設 (ポーランド) 22億円  
    ベトナム冷蔵倉庫新設 10億円

# 2025年3月期 年間業績・計画一覧

(単位: 億円)

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第3四半期累計			第4四半期			通期		
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率
加工食品	778	63	9%	774	59	8%	811	50	7%	2,363	172	8%	767	49	7%	3,130	221	8%
家庭用調理品	226	18	9%	229	20	10%	246	11	5%	701	49	8%	234	12	5%	935	61	7%
業務用調理品	271	17	7%	266	18	7%	300	24	9%	836	59	8%	268	18	7%	1,104	77	8%
農産加工品	64	6	10%	65	4	7%	63	△0	△1%	192	10	5%	61	6	11%	253	16	7%
海外	180	23	15%	165	16	11%	168	△5	10%	513	55	12%	173	12	7%	686	67	11%
その他	38	△1	△3%	50	0	0%	34	1	2%	122	△0	△0%	30	1	4%	152	1	1%
水産	127	△11	△8%	138	△15	△10%	198	2	1%	464	△23	△5%	86	△43	△33%	550	△66	△11%
畜産	186	△24	△12%	170	△34	△17%	172	△43	△20%	528	△102	△16%	152	△37	△19%	680	△138	△17%
低温物流	659	45	7%	715	68	11%	722	51	8%	2,095	165	9%	695	52	8%	2,790	216	8%
国内小計	466	14	3%	485	18	4%	501	25	5%	1,452	58	4%	456	26	6%	1,908	84	5%
物流ネットワーク	302	9	3%	312	11	4%	325	16	5%	939	37	4%	300	16	6%	1,239	53	4%
地域保管	164	5	3%	173	7	4%	176	9	6%	513	21	4%	156	10	7%	669	31	5%
海外	186	31	20%	217	42	24%	216	25	13%	620	97	19%	220	32	17%	840	129	18%
その他・共通	6	1	18%	13	8	176%	5	1	24%	24	10	73%	18	△6	△26%	42	4	10%
不動産	12	1	5%	12	1	13%	14	3	28%	38	5	15%	8	△4	△33%	46	1	3%
その他	12	2	20%	15	4	33%	24	△1	△3%	51	5	11%	20	△2	△9%	71	3	5%
調整額	△62	△4	—	△65	△6	—	△65	△8	—	△192	△18	—	△75	△21	—	△267	△39	—
売上高合計	1,712	72	4%	1,761	78	5%	1,876	54	3%	5,348	204	4%	1,652	△5	△0%	7,000	199	3%
(海外売上高合計)	394	54	16%	414	57	16%	424	49	13%	1,232	161	15%	424	46	12%	1,656	206	14%
加工食品	58	20	54%	52	13	31%	50	△5	△9%	161	28	21%	44	3	7%	205	31	18%
水産	0	0	36%	0	△1	△89%	11	7	165%	11	6	101%	2	1	486%	13	7	120%
畜産	3	1	50%	3	1	28%	3	△1	△31%	9	0	4%	1	△1	△58%	10	△0	△4%
低温物流	34	△6	△15%	41	△5	△11%	49	0	1%	124	△11	△8%	41	17	75%	165	7	4%
国内小計	33	△5	△12%	37	△4	△9%	49	5	12%	119	△3	△3%	26	9	51%	145	6	4%
物流ネットワーク	16	△2	△13%	17	△1	△7%	22	2	12%	55	△1	△2%	13	4	51%	68	3	5%
地域保管	18	△2	△11%	19	△2	△11%	27	3	12%	64	△2	△3%	13	4	52%	77	3	3%
海外	7	1	18%	10	1	8%	7	△3	△31%	23	△1	△6%	11	△0	△1%	34	△2	△4%
その他・共通	△6	△2	—	△5	△2	—	△7	△2	—	△18	△6	—	4	9	—	△14	2	—
不動産	4	△0	△2%	5	1	23%	5	1	22%	14	2	14%	5	1	16%	19	2	15%
その他	1	2	—	3	2	982%	7	△1	△14%	11	3	40%	1	△4	△79%	12	△1	△7%
調整額	△6	△1	—	△3	△3	—	△5	△4	—	△13	△8	—	△6	△1	—	△19	△10	—
営業利益合計	95	16	20%	101	7	7%	121	△3	△3%	318	20	7%	87	16	23%	405	36	10%
経常利益	103	20	24%	103	5	5%	124	△4	△3%	331	21	7%	81	8	11%	412	29	8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	64	15	30%	64	△3	△4%	77	△7	△8%	206	5	2%	54	10	23%	260	15	6%
ないし当期純利益																		

# 各中計期間の業績の推移

おいしい瞬間を届けたい



※今回の通期計画変更に伴う変更箇所は色を付けている

(単位：億円)	energy 2012 (10-12年度)			RISING 2015 (13-15年度)			POWER UP 2018 (16-18年度)			WeWill 2021 (19-21年度)			Compass Rose 2024 (22-24年度)		
	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3E
加工食品事業	1,619	1,742	1,616	1,807	1,939	1,992	2,050	2,207	2,266	2,348	2,255	2,442	2,757	2,909	3,130
水産事業	668	657	637	686	687	688	694	715	712	658	631	677	690	616	550
畜産事業	783	756	755	801	895	920	881	904	911	883	841	803	858	818	680
低温物流事業	1,394	1,495	1,564	1,684	1,783	1,849	1,869	1,951	2,010	2,065	2,123	2,245	2,442	2,574	2,790
不動産事業	66	49	47	50	47	46	46	49	48	50	46	43	45	45	46
その他の事業	62	60	58	37	44	52	45	53	58	57	49	42	61	68	71
調整額	△ 215	△ 210	△ 200	△ 191	△ 196	△ 194	△ 189	△ 199	△ 204	△ 212	△ 218	△ 226	△ 231	△ 228	△ 267
売上高合計	4,378	4,549	4,477	4,874	5,200	5,354	5,397	5,680	5,801	5,849	5,728	6,027	6,622	6,801	7,000
加工食品事業	46	52	60	34	54	80	139	146	146	167	172	142	140	174	205
水産事業	6	2	1	4	2	7	8	3	2	4	5	10	10	6	13
畜産事業	4	5	5	1	4	4	16	13	15	9	13	12	10	10	10
低温物流事業	73	74	86	89	87	100	106	113	114	118	131	146	151	158	165
不動産事業	36	24	23	24	21	22	21	22	21	20	20	17	18	17	19
その他の事業	4	5	4	4	6	9	6	8	3	△ 3	△ 3	△ 3	8	13	12
調整額	△ 2	0	0	1	0	△ 5	△ 3	△ 5	△ 6	△ 6	△ 8	△ 9	△ 7	△ 9	△ 19
営業利益合計	167	162	179	158	174	216	293	299	295	310	329	314	329	369	405
経常利益	161	153	172	144	169	214	291	307	299	318	335	317	334	383	412
親会社株主に帰属する 当期純利益	40	79	98	89	95	135	188	191	199	196	212	234	216	245	260
総資産	2,846	2,905	2,979	3,185	3,420	3,385	3,462	3,673	3,773	3,900	4,057	4,276	4,573	4,852	
設備投資等（リース資産を含む）	221	122	132	240	242	162	139	250	241	273	378	279	304	313	368
ROIC (%)				4.2	4.3	5.9	8.0	8.1	7.8	7.6	7.5	7.8	6.9	7.5	7.8
自己資本比率 (%)	40.4	40.2	41.3	41.9	43.0	44.4	46.0	44.3	46.9	47.3	50.1	49.4	49.1	52.2	
営業利益率 (%)	3.8	3.6	3.8	3.1	3.3	4.0	5.4	5.3	5.1	5.3	5.8	5.2	5.0	5.4	5.8
ROE（自己資本利益率） (%)	3.4	6.8	8.2	6.9	6.8	9.1	12.1	11.9	11.7	10.9	10.9	11.3	9.9	10.3	10%以上
1株当たり純利益（EPS）	13.08	26.35	33.40	31.12	33.29	94.30	135.11	142.23	149.65	147.16	159.19	176.72	167.14	191.80	203.85
1株当たり配当金（DPS）	9	9	10	10	10	12	28	30	32	42	50	50	52	74	92
期末口現在株価（円）	355	388	561	436	674	916	2,754	2,940	2,728	3,055	2,849	2,369	2,684	4,143	

注：①設備投資等には無形固定資産を含む  
 ②13/3より、加工食品の売上高は、売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映  
 ③16/3以前は、株式併合前の数値となる

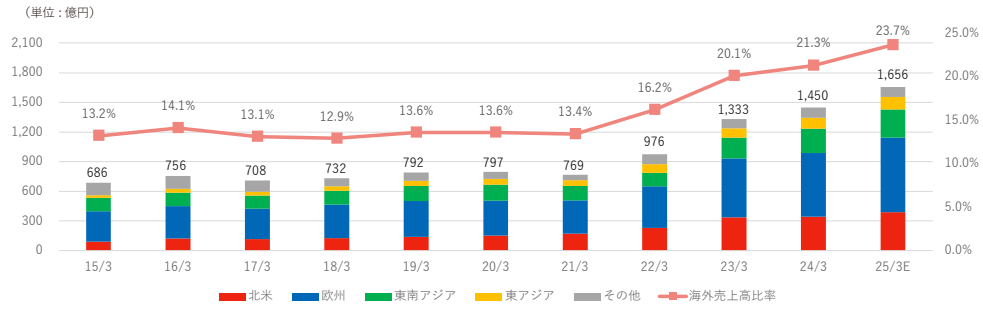
# ROICの推移

	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3E
<b>グループ全体 ROIC (%)</b>	<b>4.2</b>	<b>4.3</b>	<b>5.9</b>	<b>8.0</b>	<b>8.1</b>	<b>7.8</b>	<b>7.6</b>	<b>7.5</b>	<b>7.8</b>	<b>6.9</b>	<b>7.5</b>	<b>7.8</b>
NOPAT率 (%)	2.0	2.1	2.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.9	4.1	3.5	3.9	4.0
使用資本回転率 (回)	2.1	2.0	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	1.9	1.9	2.0	1.9	1.9
WACC (%)										4.0	4.0	4.0
<b>加工食品</b>												
<b>簡易ROIC (%)</b>	<b>3.2</b>	<b>5.2</b>	<b>8.3</b>	<b>15.3</b>	<b>14.4</b>	<b>13.3</b>	<b>15.1</b>	<b>13.9</b>	<b>10.3</b>	<b>8.5</b>	<b>10.8</b>	<b>12.2</b>
税引後営業利益率 (%)	1.0	1.8	2.7	4.7	4.6	4.5	4.9	5.3	4.0	3.5	4.1	4.5
主要使用資本回転率 (回)	3.1	2.9	3.1	3.3	3.2	3.0	3.1	2.6	2.6	2.4	2.6	2.7
<b>低温物流</b>												
<b>簡易ROIC (%)</b>	<b>5.2</b>	<b>5.0</b>	<b>6.0</b>	<b>6.9</b>	<b>7.0</b>	<b>7.1</b>	<b>7.2</b>	<b>7.8</b>	<b>7.7</b>	<b>7.7</b>	<b>7.2</b>	<b>7.2</b>
税引後営業利益率 (%)	3.3	3.1	3.6	3.9	4.0	3.9	4.0	4.3	4.5	4.3	4.2	4.1
主要使用資本回転率 (回)	1.6	1.6	1.7	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.8	1.7	1.8
<b>水産</b>												
<b>簡易ROIC (%)</b>	<b>1.5</b>	<b>0.8</b>	<b>2.2</b>	<b>2.7</b>	<b>1.0</b>	<b>0.6</b>	<b>1.5</b>	<b>2.0</b>	<b>3.3</b>	<b>3.5</b>	<b>2.9</b>	<b>7.5</b>
税引後営業利益率 (%)	0.4	0.2	0.6	0.8	0.3	0.2	0.5	0.6	1.0	1.0	0.7	1.6
主要使用資本回転率 (回)	3.9	3.7	3.4	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.7	4.4	4.6
<b>畜産</b>												
<b>簡易ROIC (%)</b>	<b>1.6</b>	<b>3.5</b>	<b>6.2</b>	<b>29.4</b>	<b>16.3</b>	<b>16.8</b>	<b>13.6</b>	<b>21.5</b>	<b>20.2</b>	<b>13.8</b>	<b>12.4</b>	<b>16.8</b>
税引後営業利益率 (%)	0.1	0.3	0.3	1.3	1.0	1.1	0.7	1.1	1.0	0.8	0.9	1.0
主要使用資本回転率 (回)	15.9	13.1	22.3	23.3	16.4	15.1	19.1	20.0	20.1	17.9	14.1	16.2
<b>バイオサイエンス</b>												
<b>簡易ROIC (%)</b>	<b>8.4</b>	<b>9.6</b>	<b>14.9</b>	<b>9.5</b>	<b>9.4</b>	<b>2.4</b>	<b>△ 2.2</b>	<b>△ 3.2</b>	<b>△ 3.0</b>	<b>8.9</b>	<b>12.5</b>	<b>12.3</b>
税引後営業利益率 (%)	7.6	9.4	13.2	11.1	11.4	4.5	△ 4.5	△ 6.6	△ 6.1	12.0	15.2	12.9
主要使用資本回転率 (回)	1.1	1.0	1.1	0.9	0.8	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.8	0.9

※簡易ROIC=税引後営業利益÷主要使用資本（営業資金+有形無形固定資産）

※今回の通期計画変更に伴う変更箇所は色を付けている

# エリア別連結海外売上高



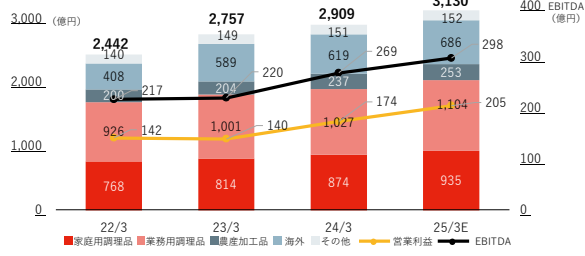
(単位：億円)

	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3	23/3	24/3	25/3E
海外売上高合計	686	756	708	732	792	797	769	976	1,333	1,450	1,656
北米	92	122	116	126	138	153	171	230	338	344	388
欧州	307	328	309	339	365	353	338	421	595	643	756
東南アジア	137	137	131	142	151	163	144	137	210	247	284
東アジア	26	38	41	45	53	56	59	86	94	112	127
その他	125	131	112	80	84	72	56	101	95	104	101
海外売上高比率	13.2%	14.1%	13.1%	12.9%	13.6%	13.6%	13.4%	16.2%	20.1%	21.3%	23.7%
為替レート											
米ドル/円	105.86	121.05	108.87	112.19	110.44	109.06	106.83	109.80	131.45	140.55	154.00
ユーロ/円	140.43	134.32	120.36	126.66	130.42	122.08	121.82	129.88	138.05	151.98	165.00

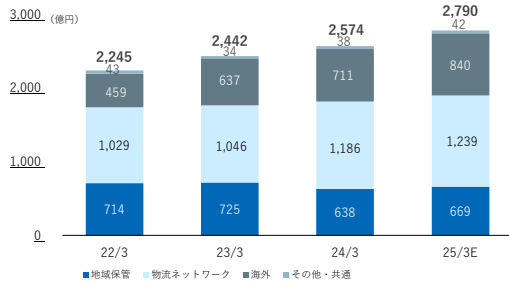
※実績の為替レートは当該年1月～12月までの期中平均で算出している

# 主力事業の業績推移

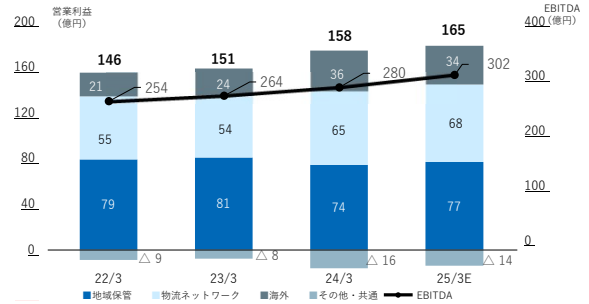
【加工食品事業】売上高・営業利益・EBITDA推移



【低温物流事業】売上高推移



【低温物流事業】営業利益・EBITDA推移





SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比

市場	24/3期 1Q	24/3期 2Q	24/3期 3Q	24/3期 4Q	24/3期累計	25/3期 1Q	25/3期 2Q	25/3期 3Q
全体	109%	106%	106%	106%	107%	103%	105%	105%
畜肉フライ	128%	123%	118%	107%	119%	96%	96%	99%
ピラフご飯類	103%	104%	105%	104%	104%	101%	107%	104%
おにぎり	112%	107%	125%	109%	113%	107%	113%	107%
和風スナック	106%	107%	109%	103%	106%	108%	111%	114%
ハンバーグ	112%	110%	109%	95%	106%	91%	98%	102%

出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移（70代まで））。購入ルート＝生協店舗・店舗以外を含む。（宅配等含む）

当社の価格改定の【実施時期】と【改定効果の発現時期】

実施時期	改定対象	改定率 (当初計画)	2023年3月期				2024年3月期				2025年3月期				2026年3月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2021年11月	家庭用	約4～8%	■															
	業務用	約3～10%	■															
2022年3月	農産加工品	約8～15%	■															
2022年4月	業務用	約4～10%	■															
2022年8月	家庭用	約8～20%		■														
2022年9月	業務用	約4～22%		■														
2023年2月	家庭用	約6～20%			■													
	業務用	約5～25%			■													
2023年7月	業務用	約8～27%			■													
2024年3月	家庭用	約1～6%				■												
2024年4月	業務用	約1～6%				■												
2024年9月	農産加工品、家庭用	約3～7%					■											
2024年10月	農産加工品、業務用	約5～7%					■											
2025年2月	家庭用	約10～30%						■										
	業務用	約5～30%						■										
改定効果（億円）			10	25	32	47	50	39	30	10	5	5	7	10				
			合計114億円				合計129億円				合計27億円							

## 海外売上高実績と計画

(単位: 億円)

		2025年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率			
売上高	北米	97	9	10%	91	13	16%	90	7	8%	93	9	10%	372	37	11%
	GFPTニチレイ	64	12	23%	57	4	7%	65	11	21%	65	3	5%	252	30	13%
	その他	19	2	14%	16	△0	△1%	13	△3	△18%	15	0	3%	62	△0	△1%
	合計	180	23	15%	165	16	11%	168	15	10%	173	12	7%	686	67	11%

## 【北米】売上高・営業利益

		2025年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
増減	率		増減	率		増減	率		増減	率		増減	率			
売上高	連結通貨 (億円)	97	9	10%	91	13	16%	90	7	8%	93	9	10%	372	37	11%
	現地通貨 (百万USD)	65	△1	△2%	58	1	2%	60	3	5%	57	0	0%	242	4	1%
営業利益	連結通貨 (億円)	5	△1	△12%	3	△1	△35%	3	△5	△61%	3	△4	△55%	14	△10	△42%
	現地通貨 (百万USD)	3.7	△1.0	△21%	1.6	△1.3	△44%	2.0	△3.3	△62%	1.8	△2.7	△60%	9.1	△8.2	△47%
営業利益率 (連結通貨)		5.6%			2.9%			3.3%			3.1%			3.8%		
為替レート (米ドル/円)														154.00		

## 海外売上高実績と計画

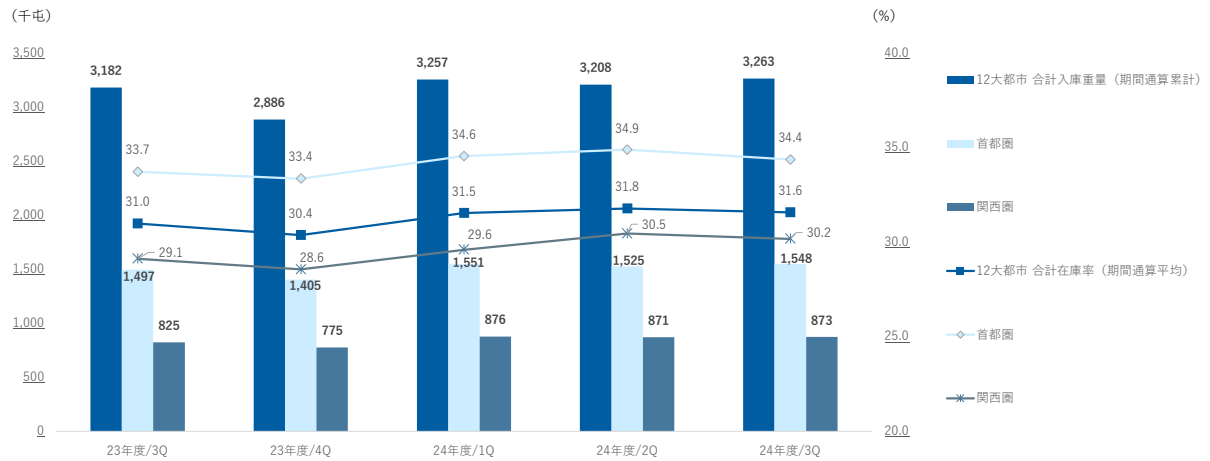
(単位: 億円)

		2025年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率		
売上高	欧州	168	24	16%	195	36	23%	195	23	14%	198	31	18%	756	114	18%
	東アジア	12	2	17%	15	2	13%	15	1	7%	15	0	3%	57	5	10%
	東南アジア	6	5	426%	7	4	120%	6	0	5%	7	1	11%	27	10	59%
	合計	186	31	20%	217	42	24%	216	25	13%	220	32	17%	840	129	18%

## 【欧州】売上高

		2025年3月期														
		第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			通期		
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		計画	前年同期間比		計画	前年同期間比	
	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率	増減	率		
連結通貨 (億円)	保管	68	14	26%	76	17	29%	76	11	17%	74	7	11%	294	50	20%
	通関・輸配送	100	9	10%	119	19	19%	119	12	11%	126	23	23%	463	64	16%
	合計	168	24	16%	195	36	23%	195	23	14%	198	31	18%	756	114	18%
現地通貨 (百万ユーロ)	保管	42	4	12%	46	6	15%	46	5	12%	44	3	6%	178	18	11%
	通関・輸配送	62	△2	△3%	71	4	6%	72	5	7%	75	11	18%	280	18	7%
	合計	104	3	2%	116	10	9%	119	10	9%	119	14	13%	458	36	8%

## 業界の冷蔵倉庫稼働状況



出典：一般社団法人 日本冷蔵倉庫協会「主要12都市受寄物庫稼働利用状況一覧表」を当社で加工

- ニチレイグループ初となる蓄電池システムを導入  
太陽光オンサイトPPAとの連携により、発電した電力を最大限有効活用する仕組みを構築  
<https://www.nichirei.co.jp/news/2024/470.html>
- 福岡東浜物流センターに太陽光発電システムを導入  
<https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2024/20241219.html>
- ニチレイロジグループR&Dセンターテスト稼働のお知らせ  
<https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2024/20241225.html>
- IRサイトに、2024年度 社長スモールミーティングに関する情報を公開  
<https://www.nichirei.co.jp/ir/library/event.html>
- 不足しがちなたんぱく質を日常の食事からおいしく・手軽に摂れる  
ニチレイの健康ブランド「everyONe meal (エブリオンミール®)」 2025年3月より全国販売  
[https://www.nichireifoods.co.jp/news/2025/info\\_id41906/](https://www.nichireifoods.co.jp/news/2025/info_id41906/)
- ニチレイフーズ 2025年春季新商品・リニューアル商品のご案内 全64品がラインアップ  
[https://www.nichireifoods.co.jp/news/2025/info\\_id41895/](https://www.nichireifoods.co.jp/news/2025/info_id41895/)

everyONe meal



たっぷり卵のえび炒飯



コクと旨味の  
魚介豚骨ラーメン



当資料に記載されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しの上に全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果  
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。